

## 年金と税の関係性

甲斐市立竜王中学校3年 内藤 結愛

みなさんは「社会保障」というものを知っていますか。「社会保障」とは、医療や介護など、私たちが生きていく中で必要な公的サービスのことです。その中でも問題になっているのが「年金」についてです。そして、その問題に大きく関わってくるのが「少子高齢化」です。

現在、高齢者の年金は働いている人々が税金として支払っているお金からなっています。つまり、働いている人々が高齢者を支えていることとなります。国税庁の調べによると、二〇〇〇年では、一人の高齢者を三・六人が支えていたそうです。安定しているように思えますが、将来的に少子高齢化が悪化し、二〇五〇年には一人の高齢者を一・三人で支えていくようになるのではないかと予測されています。この結果を聞くと、年々、支える人が減少傾向にあり、二人の高齢者を一人で支える時代もそう遠くはないということが強く感じられます。また、高齢者の一人一人の年金の額にも差が出ており、生活に困っている人が増加しています。

この問題を改善していくためには、どうすれば良いのでしょうか。私は改善するために三つの策が挙げられると思います。一つ目は、高齢者は自分の子供と一緒に暮らすということです。子供と一緒に暮らすことで生活費などを助けてくれるというメリットがあります。しかし、現代は核家族が増加しているため難しい改善策ですが、高齢者の方から自分の子供に少し相談してみるだけでも改善への第一歩に繋がると 생각합니다。二つ目は、貯金をすることです。ニュースを見ていると、高齢者の方が「貯金をしておけば良かった」と話をされているのを目にします。その時になって後悔するのではなく、今から貯金を始めるだけでも、その先の未来はかなり変化すると思います。三つ目は、働くということです。高齢者の方は、働くと言っても、「私はもう動けなくて、働けない」と思っている方も多いためです。しかし、私は様々な場面で高齢者の方々が働いているのを見たことがあります。つまり、アルバイトなどは種類の幅が広いので、無理をしなくても働けるものもあるように思います。少し仕事などを探して働いてみるのも、良い改善策なのではないかと感じます。

最後に、私たちは年金や社会保障に頼りきりになるのではなく、自分からこの問題と向き合おうという気持ちを持つことが大切だと思います。私も家族や友達と、この問題について話をしたりして、少しでも「年金」や「税」に興味を持ってもらえるようにしたいです。